情報通信審議会　情報通信政策部会

情報通信分野における標準化政策検討委員会（第10回）議事概要

１　日 時　平成24年7月6日（金）15：00～17：00

２　場 所　第1特別会議室（総務省8階）

３　出席者（敬称略）

（1）委員（50音順、専門委員･臨時委員を含む）

徳田 英幸（主査）、浅野 睦八、荒川 薫、冲中 秀夫、河村 真紀子、下條 真司、

高橋 伸子、武田 幸子、津田 俊隆、鶴田 雅明、波多野 睦子、廣瀬 弥生、

福井 省三、古谷 之綱、堀 義貴、三尾 美枝子、森川 博之 村井 純、弓削 哲也

（2）オブザーバ・説明者（50音順）

阿久津 明人、木下 剛、竹井 淳、中村 秀治、舟橋 洋介、古沢 肇、松岡 茂登、

村本 健一

（3）総務省

利根川情報通信国際戦略局長、久保田大臣官房総括審議官、杉野研究推進室長

（4）事務局

布施田通信規格課長、藤田通信規格課企画官

４　議事

【徳田主査】

ただいまから情報通信審議会情報通信政策部会情報通信分野における標準化政策検討委員会（第 10 回）会合を開催する。本日は、パブリックコメントの結果などを踏まえた委員会報告（案）について議論していただく。

パブリックコメントの結果、前回会合で構成員からいただいたご意見などを踏まえた報告（案）の修正状況について事務局から説明いただきたい。

【布施田通信規格課長】

パブリックコメントの意見のうち１件目は、ICT 技術の基盤構築関するご意見。具体的には、「日本は社会経済インフラを有しているが、その使い方に一貫した方針がない」、「現状から復旧・復興が国の最優先課題」、「基本的な考え方において震災からの復旧、震災発生と予知と被害最小化のために ICT 技術、その基盤をどのように構築するかが大切」、「ICT での年度ごとの貢献数値を指標とするのがよい」というご意見。当委員会は

標準化政策の在り方を検討する場であるため意見募集の対象ではない点を説明するとともに、検討過程で東日本大震災が我が国の社会・経済状況に与えた影響を考慮した点も記載する。2 件目は、我が国はキャッチアップ型開発のため電気・機器ビジネスは瀕死状態でありこれを打破するために家庭に直流電源の配電系統を追加することや電気機器を直流駆動式に転換していくことが先決というご意見。当委員会は、送配電網の方式の在り方について議論する場でなく意見募集の対象ではない旨記載した。

報告書（案）については、前回会合からの変更点を説明する。今回の修正箇所には、冗長的な表現の簡潔化、エディトリアルな修正も適宜行っている。

まず、章立てとして「はじめに」「終わりに」に整理を行った。

続いて 15 ページ目、「当面推進すべき重点分野」の 3 分野を選定した経緯において、「スマートグリッド」は「ホームネットワーク」が含められている旨を追記した。16 ページ目のマップ策定の経緯の説明部分、同じように 29 ページの中長期的に推進すべき重点分野において、次項の「重点分野の具体的目標」項目名の下の本文に記載。次ページ以降各検討会の位置づけの明確化する表現に修正。21 ページ目の「デジタルサイネージのフレームの勧告化を進めていく」という記述は 6 月末に勧告化されたため「勧告化された」に現行化した。

24 ページ目以降次世代ブラウザのうち「ウェブとテレビの連携」については、国内外の標準化動向の項では、「ウェブとテレビの連携に関するシンポジウム」について「開催した」に現行化、「目標達成に向けた対応方針」では、国際標準化活動に貢献するという表現に修正。25 ページ以降の「縦書きテキストレイアウト」においても表現の明確化のため修正した。

30 ページの「新世代ネットワーク」の国内外の研究開発・標準化動向において、審議途中で新しい勧告が承認された事実を追加。41 ページの支援に関する評価の項で「外部有識者から構成される評価のための枠組みを整備すべき」について、これは先に「リスクマネジメントの評価」があるのでその枠組みとあわせて整備することが効率的であると修正している。

報告書（案）本文以降のページには専門家の方に検討していただいた標準化戦略マップを添付している。ここには具体的な達成目標、イメージ図、技術動向や標準化動向、関連団体の動き、ロードマップを記載している。

資料 10-05 の概要（案）は、諮問理由、審議経過、報告書の全体構成、それ以降は各章

の内容という構成となっている。5 ページ目は「当面推進すべき重点分野」について 6 分野から震災時のニーズ等を踏まえて 3 分野が選定され標準化戦略が策定された旨を記載し、6 ページ目にその具体的な目標の概要を記載した。7 ページ、8 ページは同様な形で「中長期に推進すべき重点分野」の記載がある。9 ページ、10 ページには標準化活動における官民役割分担についての提言をまとめている。

【徳田主査】
本日は最終会合となるため、パブリックコメントや委員会報告案に対する意見だけでなく、これまでの委員会での議論に関することや今後の標準化活動に取り組んでいくに当たっての方向性などについても自由に発言いただきたい。

【下條専門委員】
うまくまとめていただいたことに感謝。私は新世代ネットワークに係わっているが、去年の委員会設立時から状況が変わっており、割と後ろが迫ってきた感がある。方向性はいいと思うので、継続的にこれを更新していき、評価軸を作るような体制を今後構築していただきたい。

【冲中専門委員】
パブコメの 2 つ目の意見について、送配電網の方式等の在り方については意見募集の対象にしないとのことだが、報告書にはスマートグリッドについて書いているので、もう少し意見を汲んでもいいのではないか。

【村井主任】
エネルギーの問題、配電の問題も大変重要であるとした上で、「この委員会ではスマートグリッドとしてとらえています」という答えがいいのではないか。

【森川専門委員】
この意見には、スマートグリッドはアメリカの策略であるとも書かれている。

【村井主任】
少し考えてみたい。

【福井専門委員】
私は、IPTV フォーラムの運営会議主査として次世代ブラウザの標準化に係わっている立場である。本年 6 月に開催した国際シンポジウムでは、W3C 幹部を交えてスマート TV の考え方、あるいは必要な基本機能は何か等について率直な意見交換をした。
世界中の 20 億人が使う状況で誰もが使うウェブを今までとは違った形で作っていく必要があるという考え方が W3C の幹部などからも示され、放送業界はなかなか変われない中、Web はどんどん新しくなっていくという印象を強く持った。そうした新しい動きの中で技術の標準化というのは非常に重要である一方、技術を使ってサービスをやるビジネスルールについては、新しいウェブとテレビの連携という軸の中、ウェブ側でも従来のように何でもいいというよりはルールを作ろうという機運が強くある印象を持った。ビジネスルール、新しい社会サービス秩序をどうするかについて、日本のマーケット秩序の中で生まれた経験値を生かすためにも、積極的に発言していく必要がある。標準化、ビジネスルールを決めていくに当たっては、民と官が相互的に協力し合うことが今まで以上に重要になる。そのため、この報告書では、官の役割について以前に比べてネガティブな表現がなくなったのは非常にいいと思う。

【徳田主査】
民と官、官と民の連携の在り方については、42 ページの「終わりに」の中でもまとめているが、今ご指摘のあった新しい社会秩序の在り方やビジネスルールを作るというところまでは書き込まれていないかもしれない。

【津田専門委員】
PDCA を回すことについてこれまで意識しており、報告書に書かれているのはよいと思うので継続してやっていただきたい。それに加え、標準化戦略は、研究戦略とタイアップして歩調を合わせてやっていく必要がある。新事業創出戦略委員会・研究開発戦略委員会合同委員会ではいいまとめができたので、参照しながら今後 PDCA を回すとき連携を意識してやっていただきたい。

また、標準化は国同士の連携が重要。報告書にもオープンなテストベッドという話があり、研究課発戦略との連携をお願いしたい。

2 点目は、日本はテストベッドの利活用面で少し遅れている点。利活用のビジョンが示せていないことは、一般の人になかなか理解されない所以でもある。新しいことが期待できるのかというのが少し見えてきているので、引き続きアピールしていくことがますます必要。

【荒川委員】

新事業創出戦略委員会・研究開発戦略委員会合同委員会では、漫画を使って技術がどう国民に利便性をもたらすかということをアピールしていた。そんな工夫があってもよいのかもしれない。また、パブリックコメントが 2 件という数の少なさに驚いた。

【村井主任】

パブリックコメントにおけるエネルギー問題に関する意見については、本委員会は、もともとテレメータリング、ホームネットワーク、モバイルネットワークから始まったが、震災の影響をかんがみ、スマートグリッドに変更した。これをまとめて次の回答案ではいかがか。「本委員会では、テレメータリング、ホームネットワーク、モバイルネットワークの標準化活動を震災後の影響をかんがみ、また、我が国の役割と責任に基づき総合的にとらえ、スマートグリッドとして記述してあります。」

【徳田主査】

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【高橋委員】

新事業創出戦略委員会・研究開発戦略委員会合同委員会では、ユーザ視点やビジネス展開について、参加したほとんど全員にとって納得感が高かったが、その要因の 1 つにイラストで将来ビジョンを明示したこと、それを見た人たちで議論が起きることが大前提になる、そういう方向性に対する賛同だったと思う。一方、標準化は非常に地味で専門家以外がなかなか関与しにくい分野だと思う。荒川委員からもあったように、専門家でさえパブコメで意見を出さなかったのは意外であり、これでいいのかという思いを持つ。

PDCA については、ワーキングのまとめや議事録には詳しく残っているが、この報告書では少し弱まった感がする。標準化活動におけるリスクマネジメントの在り方ということで、「状況によっては標準化活動から撤退することまで含めて判断することが必要」とあるが、これは過去の結果を踏まえてのことだったので、今後とも強調すべき。

概要版にはこうした内容が入っていないというのは問題ではないか。評価のための評価に読めるような書きぶりに感じるのでこれまでの議論にふさわしいものにしていただきたい。

リスクマネジメントの考え方については、「リスクマネジメントの機能の確認のため、標準化活動への参加以外の第三者によるチェック機能の整備が必要」とあるが、リスクマネジメント機能を確認するのではなく、リスクマネジメントの実効性を確保することが大切であるため、そういう書きぶりにしていただきたい。また、「外部有識者から構成される評価のための枠組みを整備すべき」とあるが、評価も評価検証という形でやめるべきものはやめてもっと資金なり人なりを注ぎ込むべきところには注ぎ込むという、PDCA が回るような表現にしていただきたい。本文の方も「リスクマネジメントの評価とあわせて枠組みを整備することが効率的であると考えられる」という表現になっているので、もう少し前向きな実効性が確保できるような表現にしていただきたい。

【河村専門委員】

2 章タイトル中の「研究開発戦略」という言葉は、この中身と合っていないのではないか。

【高橋委員】

中長期的な研究開発戦略は報告書（案）がまとまったので、そちらとの関係性を書き込むことが必要なのではないか。

【徳田主査】

2 章で「中長期的な研究開発戦略を踏まえた標準化の重点分野の在り方について検討していく」と記載があるので、それをそのままリファーしたのではないか。

【村井主任】

「研究開発戦略を踏まえた標準化」とあるので、高橋委員のご指摘のように、踏まえるということを主張するのがいいと思う。

【徳田主査】

この「踏まえて」は両方にかぶっているのだと思う。

【河村専門委員】

2章が中長期的な研究開発戦略について述べているよう読めた。

【村井主任】

2章は、1は短期の標準化戦略、2が中長期的な標準化戦略という構成。

【布施田通信規格課長】

目次を見ていただくと、第2章は14ページから28ページまで当面推進すべき重点分野、28ページから31ページまでが中長期に推進すべき分野で構成されている。

【徳田主査】

例えば、最初の「中長期的な」を取り、「研究開発戦略や諸外国の政策等踏まえた事業化の重点分野」としてはどうか。

【布施田通信規格課長】

2章のタイトルについて提案したい。「中長期的な」から「踏まえた」までを落とし、「標準化の重点分野について」とするとすっきりすると思うがいかがか。

【村井主任】

諮問事項に記載された文言のはずだが、大丈夫か。

【布施田通信規格課長】

目次なので問題ないと思う。

【村井主任】

先ほどの高橋委員からの評価に関するご指摘について、この委員会でも意見が出ていたので、根本的なところにいれておく必要がある。例えば、第1章の国際情勢を踏まえた標準化の重要性の項「特に」で始まるパラグラフにおいて、「貢献度の効果に対する目標を明確にした上で」の後ろに「その目標に対しての評価を継続的に行い、国際標準化活動に取り組んでいくことが求められる」の文言を追加してはどうか。こうすると初めの方の本質的なところに目標を設定して、それに対する評価をするという言い方になって良いのではないか。

【鶴田専門委員】

全体的によくまとめられて非常にありがたく思う。

次世代ブラウザについては、W3C などで HTML5 ベースにしたテレビと放送が連携したブラウザの標準化が動いているが、アメリカなどは事業性も念頭に置いた提案となっている。

放送コンテンツと、テレビ機器、あるいはセットトップボックスといったハードだけでは産業強化とか事業収益が上げられないような構図がある。今のビジネスモデルの中に 3 つのステークホルダーがあって、一つはコンテンツ、もう一つは端末、もう一つ重要なのはサービスプロバイディングという事業。そのサービスプロバイディングをにらんで標準化を行わないと、産業の浮揚、事業競争力の強化ができない状況である。コンテンツや端末を国際展開することに加えて、それらをベースにしたサービス事業の国際競争力の強化といった文章を追加してはどうか。

【村井主任】

「縦書きレイアウト」と「ウェブとテレビの連携」の上側に我が国の産業の国際競争力の維持、強化を目的とするという要素を入れるのではどうか。

【徳田主査】

3 つのキーワードのコンテンツ、端末、サービスプロバイディングの内、「サービスプロバイディング」が抜けているということを気にされていると思うのでそこのキーワードをうまく入れるようにしたい。

【木下様】

6月に US IGNITE で、情報通信分野における将来を見据えた新しいアプリケーション等の開発のイニシアティブが米国で論議されており、本文 7 ページ目の米国の動向に US IGNITE の新しい動きを追加してもらいたい。産学官でやっていく情報通信の新しいアプリケーションの開発ということで、向こう5年間を見据えているが、スマートグリッド、クリーンエネルギー等々も大きなテーマとして、対象テーマとして含まれている。

【森川専門委員】

報告書の全体的な方向性はいいと思う。今後についての

1 点目として、人材育成について、標準化活動に従事された方の知見を活用する仕組みが必要だと思う。経産省では、学会とも協力しながら、標準化プロを大学や学会の研究会などに派遣して招待講演でお話ししてもらうとプログラムがある。

2つ目として、例えば、36ページの諸外国との連携のための方策において仲間づくりが極めて重要であると指摘があるが、EU では研究開発段階で FP7 では様々な人を集めることが目的になっており、仲間づくりをするための場を提供している。我が国でもぜひとも推進していただきたい。こういった仲間づくりを諸外国の人たちとやる際、日本は他の国と違ってパーティーとか懇親会にお金をかけられない事情がある。アジアでもヨーロッパでもお金をかけるが日本だと持ち出しでやるしかないというのがほとんど。

【徳田主査】

今のご指摘の点は本文の38ページの中の（3）標準化人材の確保の項に書き足すイメージか。

【森川専門委員】

これから具体的にやるに当たってのコメントなので含めていただかなくても構わない。

【村井主任】

経験豊富だとシニア人材になってしまうのか。「経験豊富な人材」でいいと思う。

【古谷専門委員】

重点分野が決められてプロジェクト的に運営をすればそれなりに効果があると思うが、果たしてこれで日本の標準化が強くなるだろうかと考えたとき、今日本が何で標準化に弱いかと言われている問題の本質に対しては答えを与えていないと思う。例えば、電気自動車のコンセントの話が出てきたとき、日本だけでやっていて欧米は別の方式に走ってしまったというようなことがこれからも激しさを増して出てくるのではないかと思う。

そういう中で標準化をどうすべきという議論をこれで閉じてしまっていいのか、継続的に日本の標準化を強くするにはどうしないといけないのかということを考えていく必要があると思う。

【徳田主査】

今回のこの委員会で実施したアンケートの結果を見ると、企業のトップの方たちの標準化に対する考え方が曖昧で情報収集できればいいという考えがあり、企業の戦略との連携性があまり考慮されていないことが浮き彫りになった。今ご指摘いただいたのは非常に大事なポイントであり、何らかの形でもう少し強いメッセージを出さないと繰り返しが起きてしまうということだと思う。

【中村様】

デジタルサイネージコンソーシアム理事として今後について意見を述べさせていただきたい。日本の物作りが赤字続きと言われる中、モジュール化あるいは標準化を積極的に取り入れてグローバル市場に打って出るのがポイント。そういった中、標準化は、基盤技術をコモディティ化、あるいは時には無償で技術を普及させてマーケットを広げ、様々なビジネスができるようにするという戦略だと思う。デジタルサイネージは、屋外大型広告事業者の集まりが多く、一品生産的なところがあり、日本も強い。標準化という意味では、インターネットが常に次のビジネスを見据えて積極的に採用している戦略として先例となっている。これからは、インタラクティブ、広告効果、メジャメントといった点が議論になっていくが、引き続き重要テーマとして注目されると思う。デジタルサイネージ分野での標準化も戦略的な取組が重要であり、民民の取組をどう国としてサポート・ハンドリングしていくか考えたとき、少し視点を変えて、今ある技術や研究開発も大事だが、どう実装するか普及の観点も必要。インターネットは、1995 年ごろ商用化、2005 年頃からブロ

ードバンド化、そこを土台として成功したのがApple、Googleである。基盤的な技術が普及するための標準化活動はたゆまずやっていく必要がある。テレビは家の中に入り、放送法という形で基準があるが、デジタルサイネージは屋外広告看板、パブリックスペースでの情報発信インターフェースとして、看板のデザインとか表記方法を規制などあるが、ネットワークにつながったときのお作法、社会実装するためのルールという側面からの標準化の意味も大きい。たまたま 3.11 があり、防災という公共性の極まったところでのテーマとして重要ではあるが民間にある公共空間での標準化といったところも大きなポイントだと思う。

【竹井様】

世界で標準化を進める一番のドライバーは、情報通信分野ではビジネスに何かツールとして使いたいという人たちのモチベーションが大きかったと理解している。ただ、政府がどうしても出てこなければいけないような分野もある。災害時にICTをどう使うかという点については民間だけでは解が得られない、若しくは標準化が難しいという場合、政府が役割を果たすことで前に進めると思う。官民の役割について認識を合わせながら、世界を変えていく新しい技術が日本から出てくるといいと思う。

【弓削専門委員】

今までの議論をまとめていただいて非常にありがたく思う。中長期的な重点分野について新世代ネットワークに一本化されているが、中身がちょっとわかりにくいような気がする。今後、PDCA 等を通じた継続的な作業の中で必要があれば項目をブレークダウンするといったことがメンテナンスとして必要だと思う。企業経営者は標準化に対して若干理解が足りない部分があるのではないかとの指摘については、企業によってはある程度理解しつつも、自分達で必ずしもやることではないという企業的な判断もあると思う。

【村井主任】

古谷専門委員の指摘は、基本的には、皆これで終わりにしてはだめ、今後、状況を見直して検討を続ける必要があるということだと思う。その点を 43 ページの「本検討結果を踏まえて情報通信分野における通信化政策を推進することを期待する」ところに標準化政策を継続的に推進するとった表現を入れてはどうか。

【徳田主査】

今日お諮りした資料 10-04 へのコメントの反映については主査に一任する形で報告書最終版とさせていただいてよろしいか。

【高橋委員】

評価のところでは第三者という表現がある。第三者が誰かについて議論していないが、今までこの種の委員会では明確にして次に続けたことがあるので、この第三者に関してコンセンサスが得られるのであれば、「審議会が」というような文言を盛り込んでいただければ、評価検証可能となると思うが、いかがか。

第三者が誰かが明確でないままにしておくのは無責任という気がする。情報通信審議会が関与するという形にするのがよいのではないかと思う。

【村井主任】

いろいろな人がチェックしなければいけないという意味では審議会だけでチェックしたのではだめというような意見も出てくると思う。審議会にチェックさせるというのはなかなか難しいような気がする。

【布施田通信規格課長】

第三者は関係者以外となっているため、審議会の委員の方たちは関係者ではないかという考え方や審議会の役割は法令で定められているため、それとの整合性も考える必要がある、という状況である。

【徳田主査】

38 ページに「また、そのようなリスクマネジメントがきちんと機能しているかどうかを確認するため、標準化活動への参加者以外の第三者によるチェック機能を」という表現、41 ページには「政府以外の第三者によるチェック機能を」という表現、43 ページには「第三者によるチェック機能として外部有識者から構成される評価のための枠組みを整備する」というように、外部有識者から構成される評価について 3 つの表現がある。

【村井主任】

報告書では、標準化の参加者以外、外部有識者、政府以外と書かれており割合明確化している第三者となっている。

【高橋委員】

これを審議会親会に報告すれば、こういう枠組みを作る場を設定するということになるのであれば、このままでも構わない。

【村井主任】

ここでは「必要がある」とはっきりと書いてあり、高橋委員の指摘した意味での主張はしてあると思う。これを無視するかどうかは受けとめ方だが、ここまで書ければ我々としては十分ではないか。

【徳田主査】

改めて、報告書及び概要版については、本日いただいたコメントを反映させた形のものを最終版とし、これを情報通信政策部会に私から報告する。私から報告することで、主査に一任という形でお認めいただいてよろしいか。

本日が最後の会合ということで、本委員会の活動を支えていただいたワーキンググループの主任にごあいさつをお願いしたい。

【村井主任】

関係者の皆様の非常に熱心な議論に私からも感謝を申し上げたい。ウェブ関係の標準化でも、先ほど下條専門委員から指摘があったように、この議論をしている間だけでも変化が進んでいる。効果的に日本から仕掛けているが、世界がそれをキャッチアップしてしまい、むしろ追い上げられているという感もする。それはそれで非常にいい刺激を日本から与えているとすれば、とてもいい成果だと思う。追いつかれたり、追い抜かれたりしないように頑張るということが本質ではないかと思う。先ほどご指摘があったように、こういった議論は継続的に続けていき、そのときの目標、新たな目標、そして高橋委員のご指摘があったような評価を行って修正をしつつ、進めるというような仕組みが必要ではないか

と思う。先へ続くことについて我々も力を合わせて進めていくきっかけをここの答申で与えることができたのではないかと思う。どうもありがとうございました。

【徳田主査】

主査を仰せつかった私からも最後にお礼を申し上げたい。委員の皆様には丹念に様々な視点から議論いただき、その結果が本日の資料10-04に結集できたと思う。

先ほど古谷専門委員からご指摘があった点、これで問題の本質は解決するのかについては、こういう形でまとめさせていただくことによって情報発信できる面もあると思う。また、委員会アンケートを見ていた際、標準化の人材に関しては、海外では職業としてコンサルティングである標準化専門チームが派遣されている一方、日本では技術者が標準化会合に参加するというように、プロ対アマチュアの勝負になっている面が指摘されていた。

ICT 分野の標準化のアクティビティは変化が速いので、官と民の連携の在り方、立ち位置もどんどん進化する。国際的に日本が国際協力メンバーの1つとして貢献するためにも、絶えず標準化に対して見直しをかけるなり、先ほど出てきた PDCA を回すとか、新しい官民の連携の立ち位置を探るという意味でも非常に大事な場だったと思う。これが最後にならずに、これをアップデートしていくような場が持たれ、さらに日本の競争力の強化につながっていくことに貢献できればと思う。

本日、第 10 回でこういう形で取りまとめができ、改めて各委員にお礼申し上げたい。どうもありがとうございました。

【布施田通信規格課長】

先ほどご審議いただきましたパブコメ結果については、7 月 11 日目途に、当委員会の名前で報道発表する準備を進める。また、徳田主査からご紹介がありましたとおり、7 月 12 日開催予定の情報通信政策部会において委員会報告書をご審議いただき、今月末開催予定の総会でご審議いただく。答申された際には、フィードバックさせていただきたい。

【徳田主査】

それでは、本日の会議、これにて終了とする。

以上